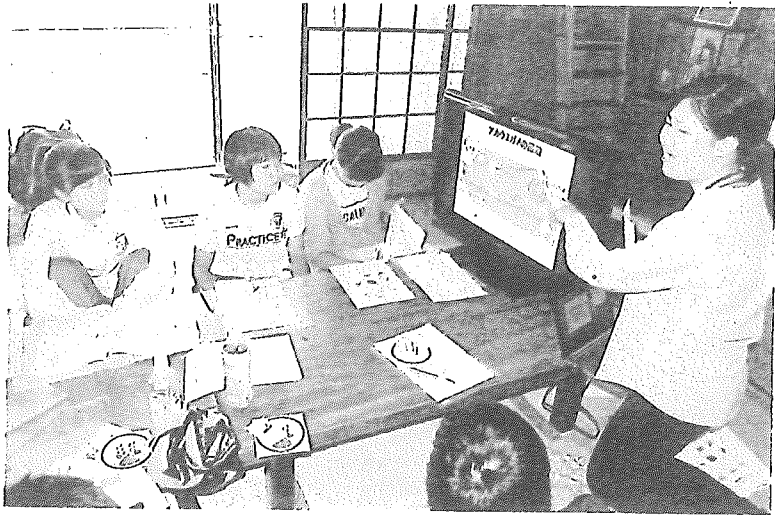


アカウミガメ なぜ減少

東京都市大と下田高 合同調査



砂浜の環境など確認

絶滅が危惧されているアカウミガメについて、東京都市大（東京都）と県立下田高が30日、下田市内で初の合同調査を開始した。31日までの2日間、産卵場所となる市内2カ所の砂浜の環境状況を調べ、9月2日に下田市民文化会館で調査結果を発表する。

生態系を研究する大学生6人と、下田高生物部の1年生13人が参加。初日はアカウミガメの勉強会を開き、大学生がこれまでの調査を踏まえ、「下田市内では昨年を上陸、産卵が確認されていない。アカウミガメは回遊域が広く、詳しい生息は分かっていない」などと解説した。

その後、入田浜と多々戸浜で砂浜の植生や地面の硬さなどを調べ、調査前に、アカウミガメについて勉強する大学生と高校生（下田市内）

た。夜間に産卵するアカウミガメを、砂浜以外の場所に誤って誘導してしまつ自動販売機の設定状況も確認した。アカウミガメは6、9月が産卵期で、31日早朝には2カ所の砂浜で上陸の足跡を調査する。海岸の環境破壊や魚網による混獲などが原因で、アカウミガメは個体数が世界的に減少しているとされる。東京都市大によると、伊豆半島の主な上陸場所である南、西海岸の砂浜でも産卵数が激減しているという。（下田支局・杉山諭）